



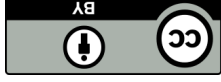
Storybooks Canada

storybookscanada.ca

ゾーシーのお姉さんが言ったこと

Written by: Nina Orange
Illustrated by: Wiehan de Jager
Translated by: Kohei Uesaka

This story originates from the African Storybook (africanstorybook.org) and is brought to you by Storybooks Canada in an effort to provide children's stories in Canada's many languages.

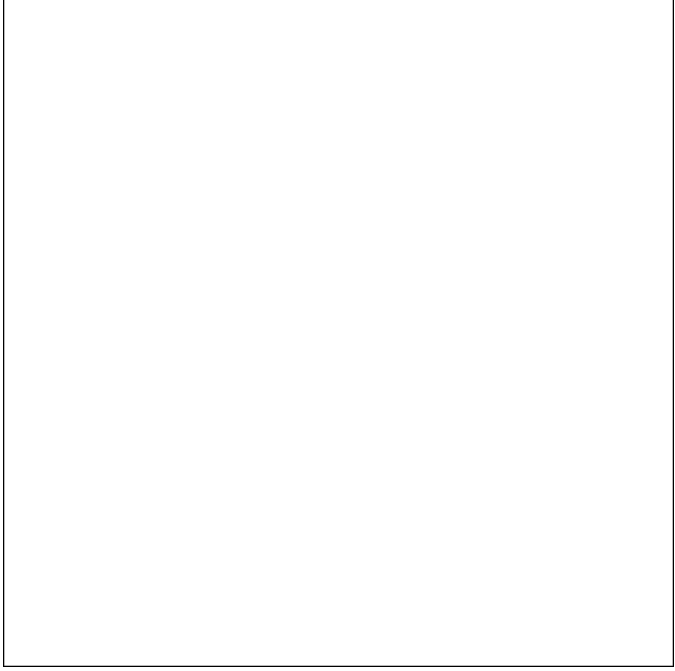


This work is licensed under a Creative Commons Attribution 3.0 International License.
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>



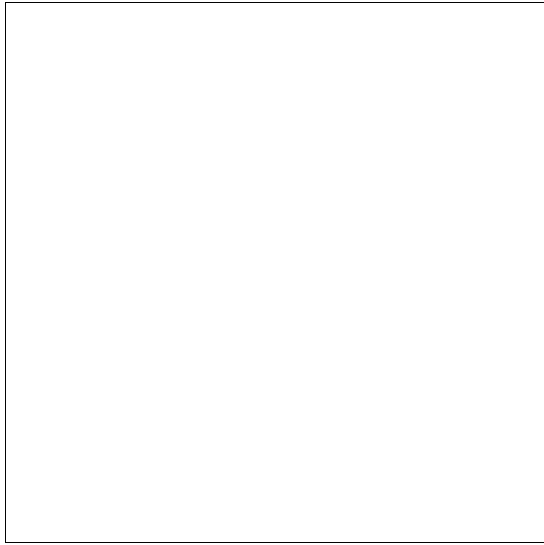
(imageless edition)

✎ Nina Orange
👤 Wiehan de Jager
📖 Kohei Uesaka
🗣️ Japanese
📖 Level 4



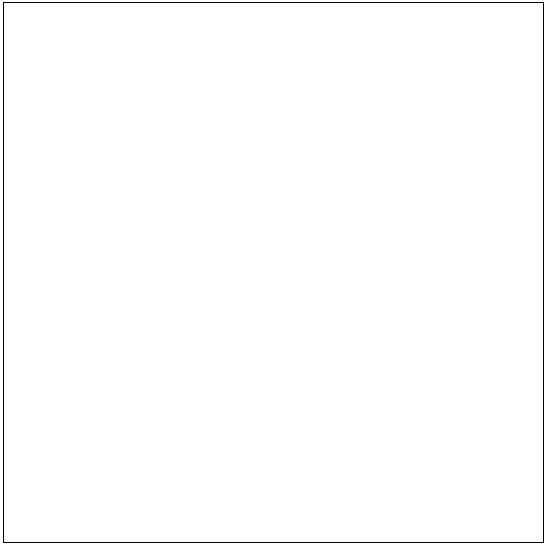
ゾーシーのお姉さんが言ったこと

と

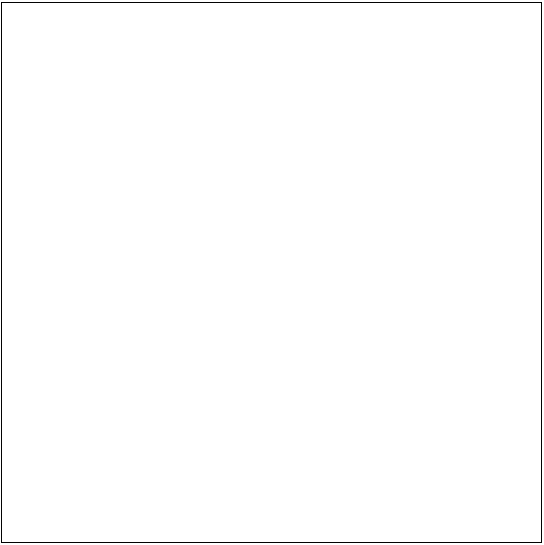


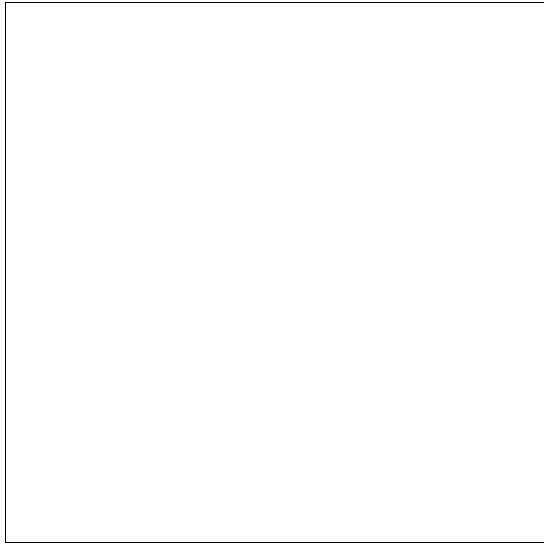
ある日の朝早く、ブーシーのおばあちゃんはブーシーにお遣いを頼みました。「ブーシー、この卵をお父さんとお母さんに届けてくれないかい？二人はこの卵で、お前のお姉ちゃんために大きなケーキを作りたいんだ。」

ブーシーのお姉さんは少しの間考えて、それから言いました。「私の弟、ブーシー。私はほんとに贈り物のことは気にしてないわ。それどころかブーキーのことは気にしてない！みんなが揃って、私はそれだけで嬉しいわよ。さあ、かつこいい服に着替えて、今日をお祝いしよう！」そして、ブーシーはその通りにしました。

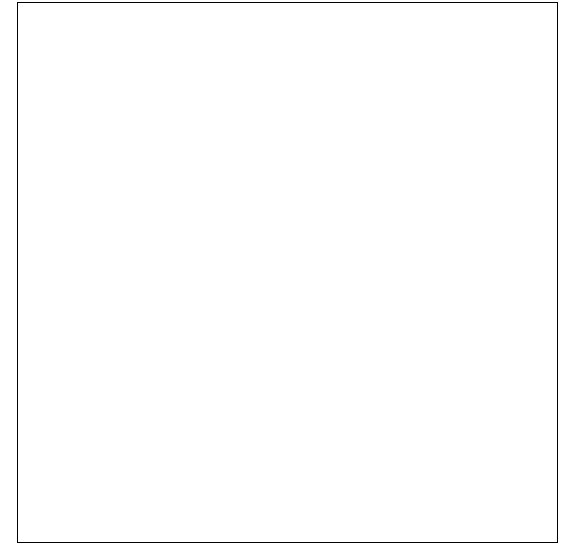


お父さんとお母さんのところへ行く道の途中、ブーシーは果物狩りをしている二人の少年に出会いました。少年はブーシーから卵を取り上げ、木に向かって投げつけてしまいました。卵は割れてしまいました。



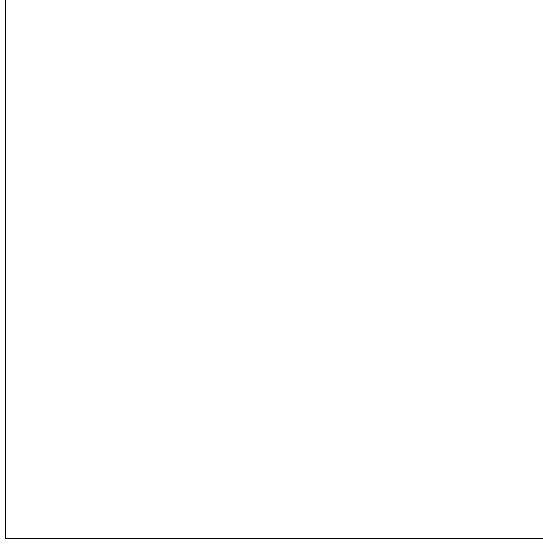


「何てことしてくれるんだ!」と言って、ブーシーは泣き出しました。「これはケーキのための卵なんだ。そのケーキは僕のお姉ちゃんの結婚式のためのものなんだ。ウェディングケーキが無かったら、お姉ちゃん何て言うかなあ...。」

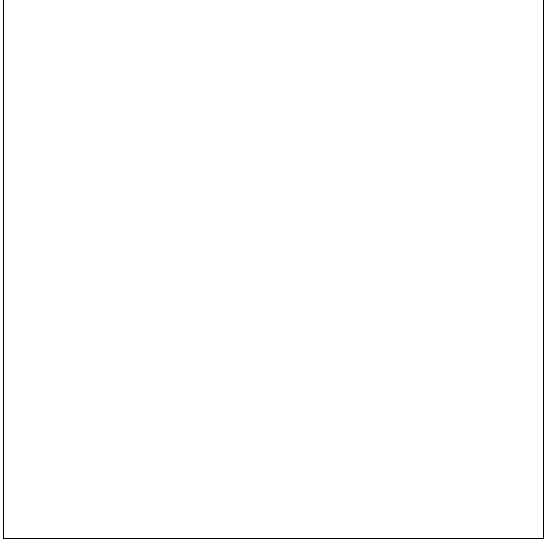


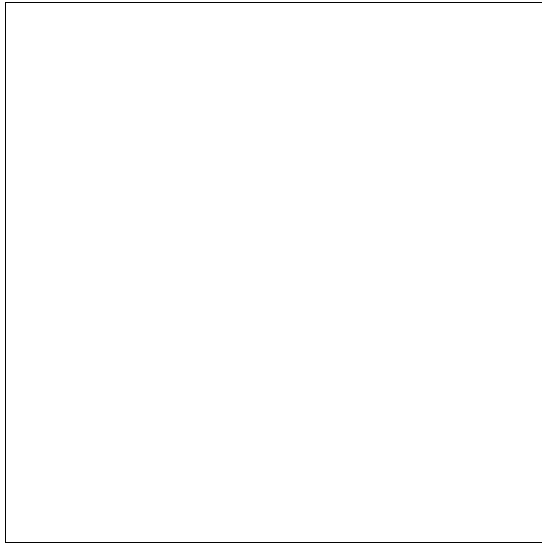
「どうしよう。」ブーシーは泣き出してしまいました。「大工が藁のお詫びにくれた贈り物の牛は逃げちゃった。大工は、果物狩りの少年からもらったステッキを折ったお詫びに藁をくれたんだ。果物狩りは、ケーキに使う卵を割ったお詫びにステッキをくれたんだ。そのケーキは結婚式のためのものだったんだ。今、卵も、ケーキも、それから贈り物も無いよ...。」

けれど牛は、夕食の時間になると農家おじさんのもとへ帰ってしまいました。そしてゾーシーは道に迷ってしまいました。ゾーシーがお姉さんのところに着いたのはだいぶ遅かったので、とくにパーティーは始まっていました。

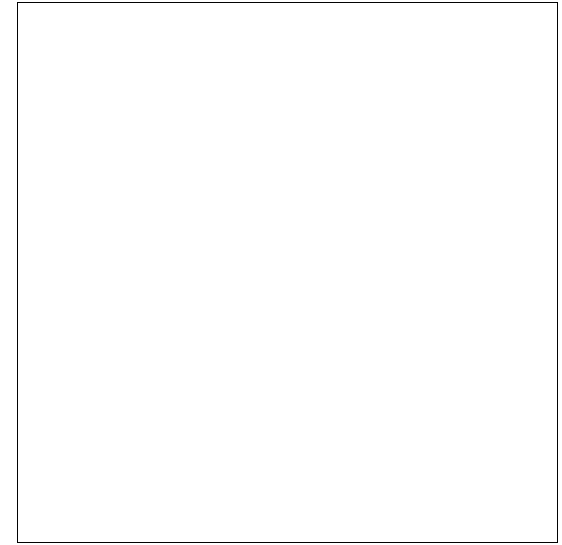


少年たちはゾーシーをからかったことを謝り、「僕たちはクレーキを作ることばできないけど、代わりにこのスツッキを君のお姉さんにやるよ。」と言い、スツッキを渡しました。ゾーシーは再び歩き始めました。

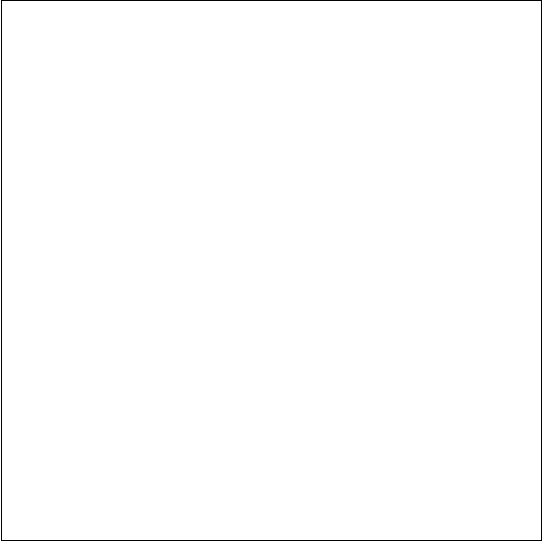




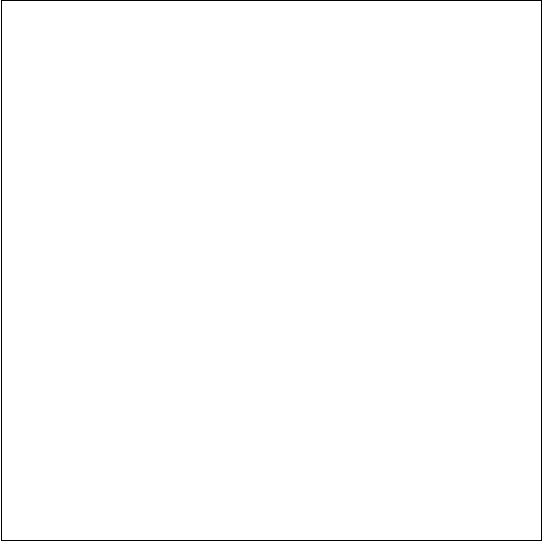
道の途中、ブーシーは家を建てている二人の男に出会いました。男の人はブーシーに「その丈夫そうな木を使ってもいいかな？」と聞きました。しかしそのステッキは家を建てられるほど十分に強くはなく、折れてしまいました。



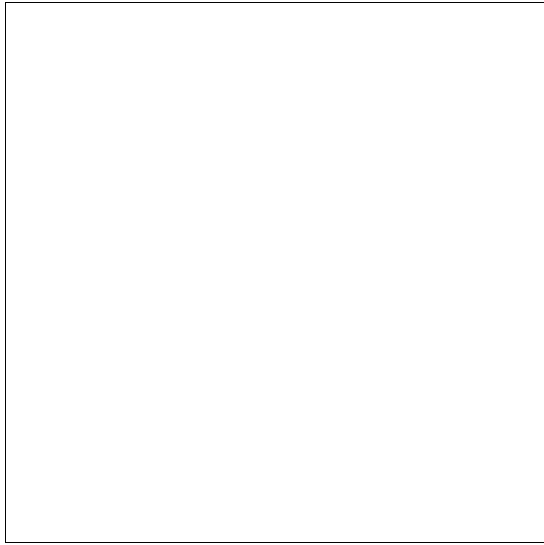
牛は食いしん坊を謝りました。農家おじさんは、牛がお姉さんへの贈り物としてブーシーに付いて行くことに賛成しました。そしてまたブーシーは歩き始めました。



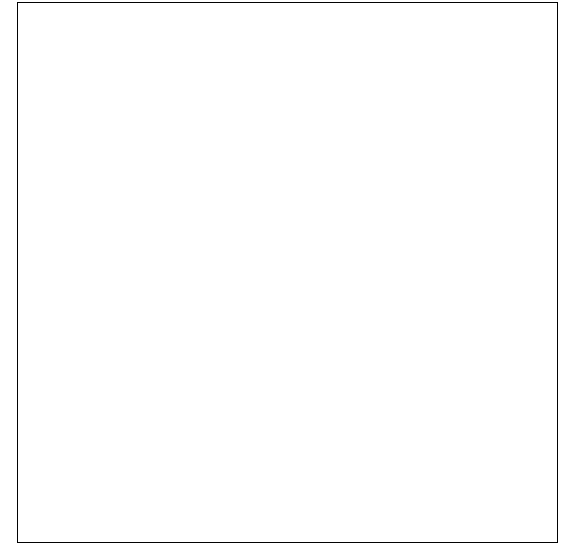
「何てことしてくれるんだ！」とブーシーは泣き出しました。「そのスツッキはお姉ちゃんへの贈り物なんだ。果物狩りの少年が、クーキに使う卵を割ったお詫びにくれたんだ。そのクーキはお姉ちゃんのウエディングケーキだったんだ。卵も、クーキも、それから贈り物も無い。お姉ちゃん何て言うだろう...。」



「何てことしてくれるんだ！」とブーシーは泣き出しました。「あの菓はお姉ちゃんへの贈り物だったんだ。大工が、果物狩りの少年からもらったスツッキを折ったお詫びにくれたんだ。果物狩りの少年は、お姉ちゃんへのクーキに使う卵を割ったお詫びにスツッキをくれたんだ。そのクーキは、お姉ちゃんへの結婚式のためのものだったんだ。そして今、卵も、クーキも、そして贈り物も無い。お姉ちゃん何て言うかなあ...。」



大工は、「僕らはケーキを作れないけど、代わりにお姉さんにこの蕨をあげよう。」と言って、ステッキを折ったことを謝りました。そしてブーシーはまた歩き始めました。



道の途中、ブーシーは農家おじさんと牛に出会いました。「何て美味しそうな蕨なんだ、少しかじっていいかな？」と牛は尋ねました。しかし蕨はとてもおいしく、なんと牛は蕨を全部たいらげてしまいました。